

## リニア建設予定地（南アルプスルート）の大鹿村で現地見学会 地元住民・地質学専門家から問題点続出！ 地元マスコミも注目！経営陣の体質に唖然！

8月1～2日、長野県大鹿村において「リニア・市民ネット」主催の「リニア中央新幹線現地 in 大鹿村」学習・見学会が行われ、地元大鹿村からはもとより長野、埼玉、神奈川など約50名が参加しました。JR東海労からも11名が参加しました。大鹿村は、JR東海が発表した「リニア中央新幹線」の南アルプスルートの線上にあたり、昨年5月に3ヶ月に亘り地質調査のためのボーリングが行われた所です。

1日の学習会では、大鹿村中央構造線博物館において、博物館学芸員の河本さんから、南アルプスの地質と地形について講演を受けました。大鹿村は、中央構造線と糸魚川～静岡構造線の大断層が走る南アルプスの西側に当たります。そのため地層はねじれ、年間4mm以上も隆起する複雑な地質構造となっています。また周辺にはいくつもの活断層が存在しているため地表に隆起した岩石は各所で土砂崩壊を続けています。河本さんは、このような地域でのトンネル建設は極めて危険であると訴えていました。また膨大な岩ズリ（トンネルを掘って出た岩石など）の処理の問題が指摘がされました。



2日目は、伊那谷自然友の会の松島さんの案内で、ボーリング

調査が行われた釜沢地区など3箇所の土砂崩壊の現地を見学してきました。

学習会に参加した全員が、JR東海がリニア建設予定地としている地域の地質、地層の状況と崩落の現実を見て、トンネル建設がいかに危険なことであるかを実感してきました。



**中央構造線、糸魚川、静岡構造線の大断層が通る南アルプス  
活断層の大規模な土砂崩壊地にトンネル建設などできるのか？**